

# 危機に直面する 介護保険の抜本改善を

全日本医連事務局次長(中央社保協介護障害者部会) 林 泰則



2000年に介護保険制度がスタートして4月で25年。大きな社会的役割を果たしてきた一方、繰り返す改悪で、地域では「介護の社会化」とはほど遠い、深刻な介護困難が広がっています。新婦人も参加する中央社会保険推進協議会(社保協)がまとめた「介護保険制度の抜本改革提言」のポイント、同協議会介護障害者部会の林泰則さんに寄稿してもらいました。

## 社会保障費の抑制策のあとで

介護保険実施後の25年間、「介護の社会化」とは裏腹に、政府によって「制度の持続可能性の確保」を全面に掲げた制度の見直しを実施されてきました(下表)。背景には、介護保険が、もともと利用を抑制するさまざまな仕組みを組み込んで設計・創設され、施行後は政府の社会保障費の抑制策のもとで、見直しが繰り返されてきた経過があります。

中央社会保険推進協議会とは？  
社会保障制度の改善をめざして、労働組合、医療、福祉関連の諸団体、女性団体などで1958年に創設。医療、年金、福祉、介護などの改善運動をすすめてきた。現在、27の労働組合、新婦人を含む13の団体が参加。全都道府県の市区町村に471の地域社保協も。

## 相次ぐ改悪 介護保険25年の経過

時期区分	負担＝利用者負担	給付＝介護サービス	介護報酬	介護保険料(基準額平均)
第1期 2000～02年度				2,911円
第2期 2003～05年度	施設等での居住費食費徴収	基盤整備の総量規制給付「適正化」対策スタート	▲2.3%	3,293円
第3期 2006～08年度		「新予防給付」創設	▲2.4%	4,060円
第4期 2009～11年度		処遇改善交付金制度創設認定制度の全面見直し	+3.0%	4,190円
第5期 2012～14年度		処遇改善交付金を介護報酬に導入	+12%実質▲0.8%	4,972円
第6期 2015～17年度	利用料2割負担導入補給給付に資産要件等導入	「総合事業」スタート「特養対象原則要介護3以上に財政インセンティブの導入生活援助「届出制」導入	▲2.27%基本報酬▲4.48%	5,514円
第7期 2018～20年度	利用料3割負担導入高額介護費の上限額引き上げ		+0.54%	5,869円
第8期 2021～23年度	補給給付の要件厳格化		+0.70%	6,014円
第9期 2024～26年度	多床室室料負担の対象拡大		+1.59%	6,225円

社保協「提言」パンフ(2025年4月発行)より

## 壊され続けてきた介護保険

4月23日、国会議員会館前で「選択的夫婦別姓制度を実現しよう」と女性団体大集会が開かれました(写真上)。

「平和を求め軍拡を許さない私たちの会(代表・田中優子法政大学名誉教授)が呼びかけ、小雨が降る中、女性団体など70人が参加。新婦人も次世代国会行動に参加した会員や首都圏の会員が加わりました。

田中優子さんは「選択を邪魔され、多くの女性たちが困っている。別姓を誰にも強制しないので、同性も強制しないでほしい。すぐに実現を」と訴えました。看護師と

## #いつまで待たせる選択的夫婦別姓 4・23女性団体大集会

いた。このことば2人の間では話さないで来た。今回、思い切った聞いた。夫は申し訳なかったと。夫の思いも初めてわかったと、声を詰まらせた。

集会の半ばには雨も上がり、「もう待たない夫婦別姓」「誰も困らない、幸せな人が増えるだけ」「選べないのは憲法違反」「反対議員には投票しない」など、参加者によるコールが国会周辺に響きわたりました。

選択的夫婦別姓を導入する法案は、立憲民主党が30年前の法務省の法制審議会答申に沿った法案を網で各党と調整していますが、維新や自民党の右派勢力が、「旧姓の通称使用の法制化で事足りる」と間違った認識を振りまいており、いまだ法案提出されていない中での集会となりました。

## 「三大改悪」の審議ふたたび

今年2025年は、3年前に世論「運動」の力で先送りさせた「史上最悪」の見直し案の審議が政府の審議会で再開されます。この中で、①利用料2割負担の対象拡大、②ケアプランの有料化、③要介護1、2の生活援助サービス等の総合事業への移行という「三大改悪」案は、年末までに審議会の報告書をとりまとめ、来年2026年の通常国会に法案を上程するスケジュールです。このうち、利用料2割負担の対象拡大は、法律の「改正」を要せず閣議決定で実施できるため、政府も重点を置いています。新日本婦人の会の調査(2023年)では、回答者の22.9%が2割負担になったら「サービス量を減らす」と答えています。「三大改悪」案は、いずれも利用者・事業者双方に重大な困難を押しつけるものであり、検討の中止を強く求めています。

「給付は削られ、負担は引き上げられ、報酬は低く据え置かれ、一方で介護保険料は上昇し続けてきた」この25年の中で、現在介護保険は深刻な危機に直面しています。

第1に、相次ぐ給付と負担の見直しによって、「保険あつて介護」の困難は深刻で、事業所数がゼロになった自治体も広がっています。

第2に、慢性化する人手不足と低介護報酬による経営難により、事業所の存続そのものが厳しくなっていることです。2024年の介護事業所の倒産・廃業件数は過去最多です。とりわけ昨年の改定で唯一「基本報酬」引き下げられた訪問介護の困難は深刻で、事業所数がゼロになった自治体も広がっています。

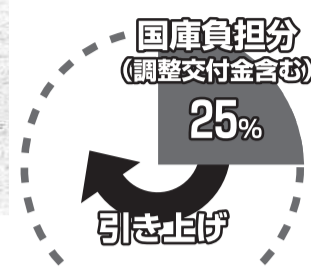
第3に、物価高騰や年金引き下げで、高齢

## 国庫負担を増やし 利用料は無料へ

社保協では、「緊急改善」と「抜本改革」の2段階で介護保険制度の改革を提言しています(左下)。

「緊急改善は、利用者・事業者が現状で抱えている困難を早急に打開する改革です。例えば利用料負担が大きく軽減され、区分支給限度額(保険給付の上限額)が大幅に引き上げられます。

「抜本改革は、利用料軽減と介護職員給与の引き上げによる経営難の解消、事業所の存続そのものが厳しくなっていることです。2024年の介護事業所の倒産・廃業件数は過去最多です。とりわけ昨年の改定で唯一「基本報酬」引き下げられた訪問介護の困難は深刻で、事業所数がゼロになった自治体も広がっています。



久しぶりの外出(本文とは関係ありません)

## 社保協の「緊急」「抜本改革」提言(抜粋)

	緊急改善案	抜本改革案
利用料	全員1割に戻す(低所得者の負担軽減を図る)	廃止(＝介護の無償化)
要介護認定制度	状態が正確に反映されるよう見直す	廃止
区分支給限度額	大幅な引き上げ	廃止
補給給付	資産要件などの撤回、対象施設の拡大	
特養の入所制限	元にもどす	
生活援助届出制	廃止	
職員の処遇改善	全ての職員の給与を早期に全産業平均水準に引き上げ	専門職にふさわしい給与の実現

林泰則氏提供

「抜本改革」は、応益負担や認定システムなど制度の根幹部分の再設計であり、利用料廃止など利用を困難にしている制度の仕組みを根本から改める改革です。憲法25条(生存権)の国民生存保障義務を土台に、「必要充足」(給付は負担に応じてではなく、必要に応じて保障)、「応能負担」(負担は給付に応じてではなく、負担能力に応じて応分の負担)の原則が貫徹されなければなりません。

これらを実現させる政策上の焦点は、介護保険財政における国庫負担割合(現在5%)の段階的かつ大幅な引き上げです(右)。

増大する介護ニーズに応え、制度改善によってサービスを充実させ、かつ高齢者の介護

ホットラインの投稿は編集部メールアドレス s-press@shinfujin.gr.jpへ

## ホットライン



「漁業の支援に」と瀬澤さん



大船渡市長と懇談

## 大 阪



市教委に市内支部とともに要請(4月16日) ▲大阪

【府本部 秋元真由美】万博が開幕しましたが、メタンガス・強風・雷・地震・熱中症など、いまだに安全が確保できない危険な夢洲万博なのは変わりません。

新婦人は全国の仲間と連携し、署名を3万4455人分(総数12万466万)を万博推進局に提出し、万博推進局に提出したの懇談を繰り返して、宣伝では夢洲の危険性を訴え、路地裏対話でも共感を広げ、中止を迫ってきました。その結果、万博遠征を見直す学校や開幕直前でも署名をする人が止まらない状況をつくってきました。

しかし、開幕2日目から万博遠征ははじまり、危険な夢洲万博なのは変わりません。

## 熊 本



のぼり旗(左)が実現▲熊本

【益城支部 甲斐幸美】4月14日、16日の前震・本震と震度7が2回も襲った熊本地震から9年目を迎えた益城町。被災した役場庁舎が再建された後、機に役場前の「非核平和都市宣言」の看板の再建を、県原水協と新婦人益城支部で町に要望する。署名も104に。



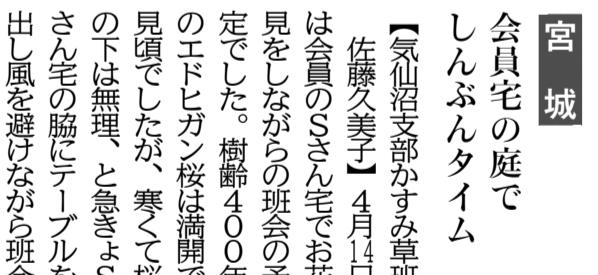
後世に伝えたい▲群馬

## 群 馬



バス旅行で松代大本営へ

【沼田支部ひまわり班 山下なを子】4月13日、ゲストを含め、38人の参加でバス旅行に出かけました。車窓から満開の桜を見ながら、長野県松代



自然を満喫！▲宮城

【気仙沼支部かすみ草草班 佐藤久美子】4月14日は会員のSさん宅でお花見をしながらの班会の予定でした。樹齢400年のエドヒガン桜は満開で見頃でしたが、寒くて桜の下は無理と急ぎSさん宅の脇にテニールを出し風を避けながら班会

## 沖 縄



自然と戯れる▲沖縄

【浦添支部 次世代グループ 松田芽子】4月5日、新婦人の次世代メンバーで、子ども9人(2歳～小学生)、大人8人で西原町と与那原町の間位置する「運玉の森」へ山登りに行きました。山登り初体験の子がほとんどでしたが、子どもたちはさすがは自然と戯れるプロでした。桑の実を見つけて、すっぴいと肩をすくめながら食べる食育が、穴のあいた木の枝を見つけて、味見をさせたり(笑)ウグイスの鳴き声に目を澄ませたり、急勾

配の坂道をロープを伝いながら登る登り足早に登った小学生組は、小さい子を救助する姿も。帰りは道は、おしりも手も顔にまで土をつけて、満面の笑みで滑り台。2歳児まで思いっきり楽しんで、山登りという、自分の身を自分で守らないといけない環境に入ると、無意識に環境を聞き、楽しみにまで変えてしまう人間の力は本当に不思議で面白いと思いました。

た、大船渡山林火災募金20万円をお届けしました。瀧澤さんは、「林野火災の間、漁がでなかつた人たちに生活支援として届ける」とお礼をのべました。

その後、大船渡市長と懇談し、県本部に寄せられた募金30万円を大船渡市の義援金として届けました。

満員電車や増え続けるメタンガスに「行かせて大丈夫なのか」。また、行かないと決めたら子どもたちをも悩ませ続けています。開幕後の16日に府教委と市教委に要請。「万博遠征はやめて」の教育委員会への要請行動をさらに広げています。

私たちは、これからも来場者のいのちと安全を守るための対策・対応を迫りながら、監視を続けることを確認。トラブルや事故、災害のおそれが生じた場合は、即時中止を求めます。

戦争がはじまると、国民には秘密にいろいろなことが行われ、戦争末期に大本営を本気で松代に移すため、国費が湯水のごとく使われたこと、工事で犠牲になった朝鮮の方も多かったことを学び、後世に伝えていかねばと思いました。バスの中ではクイズや体操で頭と体を動かさせ楽しい一日で、旅行後2人が読者、会員になりました。

読み合わせで、「高校授業料無償化の陰で公立が壊されていく(4月19日号)を読みました。『授業料無償化は良いことだと思っただけに公立高校を淘汰しようとしているとは知らなかった！』と盛り上がりました。